

石川郡大額にある大額稻荷神社の境内に在つて、地上一米五の所で周囲が五米四を有し、そこから六幹に分かれ、杉としては珍しい姿態を備へてゐる。

オホヌカノ ロツボンスキ 大額の六本杉
石川郡大額にある大額稻荷神社の境内に在つて、地上一米五の所で周囲が五米四を有し、そこから六幹に分かれ、杉としては珍しい姿態を備へてゐる。

オホヌカノ 大額坊 石川郡大額にあつた。本願寺派諸寺系圖にいふ。専光寺の開基志念は、征夷將軍惟康親王の男康忠で、出塵の後正中覺如上人の弟子となり、元應元年北陸に遊化し、二年加州石川郡大額郷に一寺を初めた。それが大額坊である。志念康安元年二月十五日六十一歳で歿したが後嗣なく、第二代志榮紳如上人の命によつて大額坊に住し、初めて護方山専光寺と改めた。

オホヌゴホリ 大沼郡 萬葉大伴家持の歌の詞書に、『從_レ珠洲郡一發船、還_レ大沼郡一之時、泊_レ長濱灣一仰_レ見月光一作歌一首。』とある。この大沼郡なる地名は實際に存せぬから、郡が郷の誤なるべきことは代匠記以下の言ふ所である。而して越登賀三州志は更に之を大海郷であらうといつてゐるが、それは非で、太沼郷であるとすべきであらう。即ち太沼郷は、和名抄に謂ふ所の越中國射水郡阿努郷に同じく、太は於字と通用する例が多いから、阿努が太努に轉訛したのである。この太沼郷を家持が航海の終點としたのは、布勢の湖口に上陸して、隣郷布師なる越中の國府に入つたのであらう。萬葉集元曆本に大沼郡を治布に作つてあるといふので、治布を治府の誤と見る説もあるが、國府を治府と稱する例を知らぬから、従ひ難い。

砂の害を避けて今の所に移つたものである。
オホネミヨウジン 大根明神 鳳至郡宇出津山分に鎮座し、今は大根神社と稱する。文政社號帳に、『大根大明神、山分村之内大平鎮座。祭神活津彦根命。』と記する。
オホネヤマ 大根尾山 鳳至郡瀧又の北方に在る山。
オホノ 大野 能美郡海郷に屬する部落。寶曆十四年の調書に、この村の土合といふ所に前田利常の御亭跡があると記する。
オホノ 大野 石川郡大野庄に屬する部落。源平盛衰記壽永二年に、『日角・室尾・青崎・大野・徳藏・宮腰まで打續きたり。』義經記に、『辨慶宮のこしまで行て判官を尋奉れども見え給はず、それより大野の湊まで参りあひけり。』親元日記文明十三年五月廿八日に、『土岐長澤治部少輔明長加州大野村小中左衛門五郎に文明十一閏九あづけ置三百文事無沙汰云々。』など見える。安政三年十一月藩に請うて大野村を町格にすることを許され、庄町・坂本町・湊川町・船手町・稻荷町・龜崎町・鑓町・茶筌町・畔・上町・蓮池町の區分を設けた。畔・上町は後に上野町と改められたものである。この大野町は慶應二年五月宮腰町と併合して金石町と稱し、明治廿二年四月下金石町と改め、三十一年五月大野町に復した。
オホノ 大野 鳳至郡河原田郷に屬する部落。明治中に至り西大野と改めた。
オホノ 大野 鳳至郡下野郷に屬する部落。岩倉寺文書永祿元年十月豊田康俊寄進狀に大野村の名が見え、能登名跡志には、『大野村は濠田村より畔を越れば下手に在り。町野川の縁に在り。大村にてよき村也。公領也。』

池田など、酒屋あり。又此村八幡宮に、毎歲八月十五日祭禮、歌舞伎などあり。』とある。明治中に至り東大野と改めた。
オホノイクシゲ 大野幾重 金澤の人。日吉町に住して瀧川流の算學を教授した。明治廿二年の頃七十六歳で歿。
オホノイシ 大野石 能美郡大野に産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、帯灰白色火山灰の凝結から成り、實全く粗面で稍硬い。
オホノウマザエモン 大野馬左衛門 宇喜多秀家の臣遠藤太郎右衛門の子頼母助は、大野宗左衛門の猶子となり、黒田長政に仕へたが、後流浪して加賀に來り、前田利長に召抱へられて八百石を賜はつた。頼母助に子なく、弟馬左衛門を養うて嗣とし、後馬左衛門は利常に仕へて三百石を領し、その長子清左衛門は百四十石を、二子伊右衛門・三子甚左衛門は各八十石を配分せられて、子孫連綿した。
オホノウマザエモンアゲチマチ 大野馬左衛門上地町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、安江木町の次に六枚町・大野馬左衛門上地町と記載してある。國事昌披問答の金澤町名中にはこの名がない。
オホノガタ 大野潟 ↓カホクガタ 河北潟。

寺中出の西北から北折し、砂丘の間を経て海に入つた。鳥尾記に、『大野町へ入る口に砂山あり。六七十年前には此山なくして、八田潟の海へ入る川なりしに、僅の年月に斯く替るといふも、桑田變じて海となるといふも宜なり。』といひ、明治初年の圖に尙その痕跡を描くものがある。慶應二年その屈曲點から、西南に溝渠を通ずること二軒餘にして、古川を岸川に通ぜしめ、砂丘間の舊水路は益壅塞した。されば古への大野部落は大野川の右岸に在つて、その河口を大野湊と稱し、湊の西南海岸に大野湊神社が鎮座したのであらう。
オホノガハ 大野川 ↓マチノガハ 町野川。
オホノギ 大野木 鹿島郡大吞郷に屬する部落。
オホノギカツアキラ 大野木克明 萬巻内藏助久俊の二男。初諱俊資、字は子徳。通稱忠三郎・平次郎・新藏・舍人。初め前田綱紀の奥小將となり、二百五十石を食み、累遷して千六百五十石を受け、人持組に班した。是より先克明、寶永七年七月晦日請うて氏を大野木に改めた。蓋し祖主計が伊勢嶺城に於いて戦死した後、その子隼人昌俊母に隨うて萬巻十右衛門に養はれ、遂に後を繼いで萬巻氏を冒すに至つたのであるからである。享保十一年歿、享年七十二。克明は綱紀に仕へること六十年、恪勤周密能く侯の親任を得た。幼より學を好み、和漢の典籍を涉獵し、その著に筆叢・閑憲記・警語榜文・和漢諸土訓戒・鑑戒談叢・敎家要語・山中湯治日記がある。
オホノギカツトシ 大野木克敏 通稱仲三郎。人持組大野木克貞の次子で、天保十四年

オホ